

## 浄土宗宗務総長・川中光教師寄稿

# 平和を願い伝える

— 平和という人類共通理念のために —

近年めざましい考古学、遺伝子学の発展により、我々人類創始の歴史が解き明かされようとしています。そして人類の負の歴史も次々に掘り起こされています。

私が学生だったころの知識では、人類は今を去るはるか数百万年前にアフリカに誕生し、長い時間をかけて現代人まで順調に進化をしてきたのだと、オランウータンのような猿がアウストラロピテクスになり、次に原人になり、ネアンデルタール人になり、クロマニヨン人になり、私たち現代人になったと学習いたしました。なんと順調な進化の歴史でしょうか。しかし近年の見解は、この順調な進化の歴史を否定するものが多く見られます。

イスラエルで2011年に出版され、日本語翻訳版もベストセラーになったユヴァル・ノア・ハラリの著書「サピエンス全史」。その序章は我々ホモ・サピエンスと呼ばれるヒトがいかに罪深い歴史を歩んできたかを教えてください。7万年前アフリカ大陸を最後に旅立った私たちの祖先は、高い知能とコミュニケーション能力を駆使し大勢で連携することができた。ヨーロッパに定住する体格や腕力、運動能力に優れたネアンデルタール人を一人ずつ包囲しては殲滅し西の果てジブラルタルまで追って絶滅させ、アジアでは原人の子孫達を滅ぼし、他の全ての人類種を根絶やしにしながら日本や太平洋の島々、南北アメリカ大陸の端まで世界中に進出したと。進出した先々では大勢の胃袋を満たすために多くの動物種を食らいつく



川中光教浄土宗宗務総長

し絶滅に追い込んだのだと。有史以前のこのような人類史はこれからさらに究明されていくでしょう。そして小・中学校、高校で学習する有史以降の世界史も日本史も、多くの人類の戦いを伝えます。ヒトの歴史は争いの歴史であり、争いの大波の中で小島のように浮かんでいるのが平和と呼ばれる時代なのです。

釈尊のご在世もマガタ国とコーサラ国の攻防、



## ◆川中光教師寄稿

## 平和を願い伝える

— 平和という人類共通理念のために —

釈迦族の滅亡など多くの争いがあったと伝わります。我々浄土宗の祖法然上人の時代も同じく争いの絶えない時代でありました。明石源内武者定明の夜討ち、皇族・貴族・武士が親子兄弟別れて争った保元・平治の乱、日本を二つに分けて紅白戦の語源ともなった源平合戦、上人在世滅後三度の法難。歴史に残る大きな争い、歴史に埋もれた小さな争いが日常生活とともにあったわけです。そしてその争いに対する反駁のように人々を諷めるのが仏教であり浄土宗だったのです。

法句経には「もろもろの怨みは怨み返すことによって、けっして鎮まらない。もろもろの怨みは怨み返さないことによって鎮まる。これは永遠の真理である。」とあり、法然上人の父漆間時国公は刀傷矢傷を受けた身体で命の灯が消えゆく時に、幼き勢至丸に対し釈尊の言葉を引用して出家の道を願ったのです。平和への願い、平和の勸

奨、平和の追求が仏教徒・浄土宗門の至上命題であることに疑いありません。

また現在七千ヶ寺を数える全国浄土宗寺院の半数以上が西暦1469年から1643年に創建もしくは中興しています。つまりは応仁の乱直後から戦国時代を経て豊臣滅亡・島原の乱後に浄土宗寺院が急増し、浄土宗教団が生成したことに注目できます。寺院の建立目的は素朴な浄土信仰や死者の埋葬・供養だったかも知れません。しかし根底に流れる人々の心には、戦への悲しみと平和を願う想いが必ずあったはずです。我々浄土宗教団は祖先の貴い願いの上に成り立っていることを忘れてはいけません。

私は寺で生まれた人間です。私が生まれたのは昭和25年。師僧である父は大正大学在学中の学徒出陣で動員された経験を家族に語ってくれまし

た。その父も往生し今年父の十三回忌になります。令和元年度の国の統計によると、戦争を小学生以上の年齢で経験した世代でご存命の方は約600万人。戦争の直接体験の話を伺える機会は数年後には皆無になることは間違いありません。若い世代にとっての戦争とは、海外の話、ドラマや映画で見る話、歴史学習で知る話、昔話になるようになっています。戦争を伝える事物も減少しております。自坊の境内には地域の英霊碑がありましたが終戦後75年を迎えるに当たり、遺族の高齢化や、地元大字からの補助打ち切り、碑自体の倒壊の危険性、次世代に引き継がない等の理由で遺族会会員の決議があり全基いわゆる墓じまいとなり、境内にポツカリと開かれた空間ができました。英霊碑を前に早朝から家族総出の墓参りでお迎えしたお盆の風景も、年に何度か行った遺族会の法要も無くなりました。撤去された英霊碑の側面にはそれぞれ戦没年月日と「満州」「ニューギニア」「ペリリュウ島」「ルソン島」などの戦没地が書かれており、お会いしたことは無いけれども、若くして異国の地で命を失った故人を偲ぶことができたのですが、今は何もありません。同様の話を他でも伺ったことがあります。今後全国的に広がっていくのではないかと危惧しております。戦争への反省があつてこそ平和を渴望する心が育まれます。戦争に思いを巡らす機会や事物を無くしてはいけません。

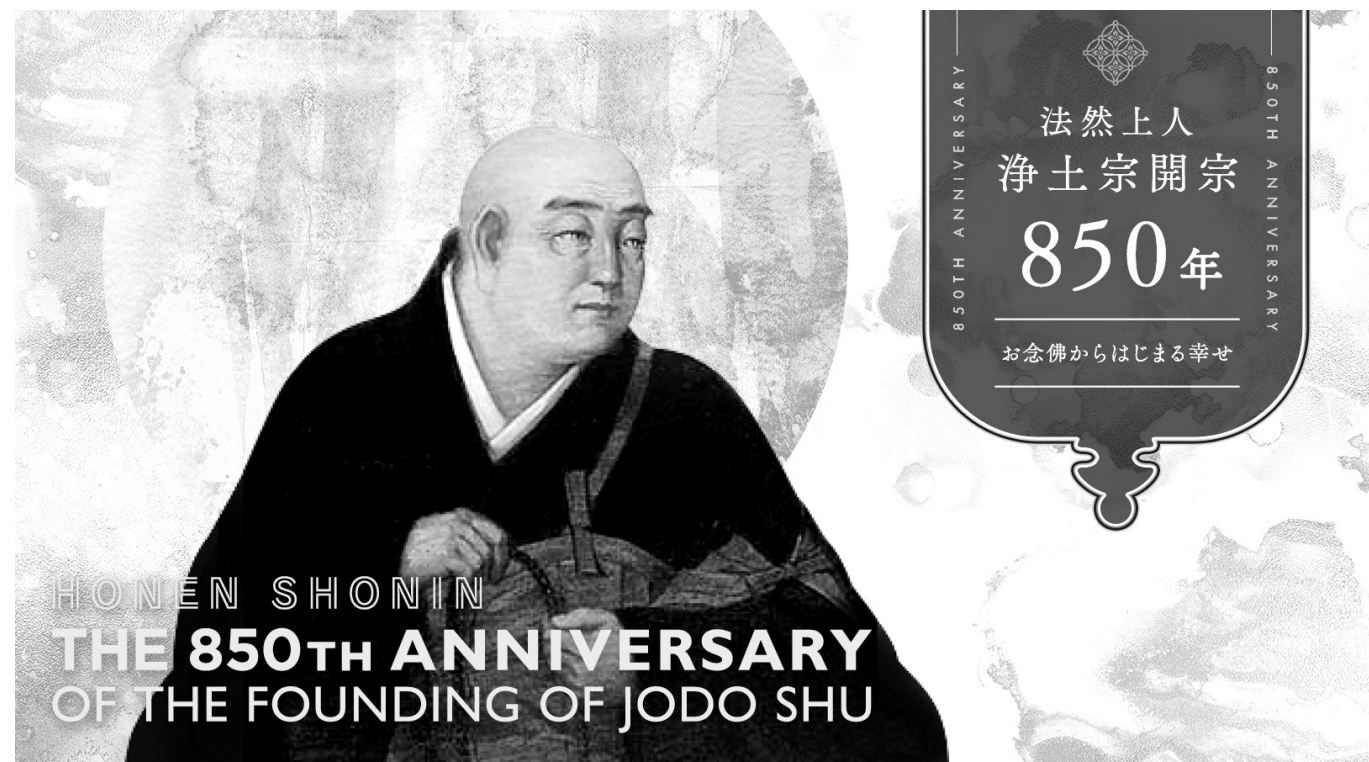
さて、現在の日本は平和と言えるのでしょうか。解釈は人それぞれかと存じます。戦争放棄を掲げ戦後75年間戦争をしていないから平和だと言う人がいるかもしれませんが。他の国や地域と比べて平和だと判断する人がいるかもしれない。あるいは未だ国内に軍が駐留し真の平和にはほど遠いという人、近隣諸国からの脅威を受け続けているという人もいます。また戦争と対比するだけが平和ではありません。人種・ジェンダー・人権の問題は未だ解決することができず、世界人

口の一割にあたる約7億人は飢饉・飢餓に苦しんでいる。犯罪・家庭内暴力など個人の平和安寧を脅かす報道が毎日のようにされています。

仏教の根本は諸行無常諸法無我であり、法然浄土教の根底は罪惡生死の凡夫であります。いつ壊れるかわからないこの世界の命運を握るのも、一人の人間の小さな平和な日常を守るのも、愚かで浅ましく弱い私たち人間一人ひとりとその集団であります。何という危うさなのでしょう。私たちは一人の青年が放った一発の銃弾が1600万人の命を奪い2000万人の戦傷者を生んだ第一次世界大戦を引き起こしたことを忘れてはいけませんし、今も悲しみの中で静かに消えていく命があることに想いを巡らせなくてはならないのです。そして涅槃寂靜。仏教は永遠の平和と安寧を目指す宗教であるはずで

す。高祖善導大師は発願文の中で「かの国に到りおわって六神通を得て十方界にかえって苦の衆生を救済せん」と発願されました。全ての人を救いたいが、一人の力では救うことの出来ない無数の命がある。極楽に往生できたならば菩薩となってその想いをどこまでも遂げよう。と、願い誓われたのです。

この浄土宗平和協会の理念は『国や信条を超え「平和」という人類共通理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動』であります。また浄土宗も開宗850年キャッチコピーとして『お念仏からはじまる幸せ』と掲げ「幸せ」の定義を「仏法僧の三宝の明るく、正しく、なかよく生きる生活の中に、幸せの本質がある」と定めています。仏教徒・浄土宗教師として平和を願い伝えることしか私にはできません。同じ想いを持つ人が集まり行動することできっと未来は変わり、理想の平和が構築されるのだと信じております。共に頑張りましょう。



2024年（令和6年）に、浄土宗は開宗850年を迎える。上記は「浄土宗開宗850年」Webページより。  
<https://850.jodo.or.jp/>



## ブックギフト2021報告

全国5会場で開催、  
88名の留学生に図書を贈る

今回初めて授与式を実施した宮城会場の様子

私費留学生を対象に研究図書を贈呈するブックギフトは、12月初旬から中旬にかけて、宮城（愚鈍院＝仙台市若林区）、東京（大本山増上寺）、名古屋（建中寺＝名古屋市東区）、京都（大本山百万遍知恩寺）、福岡（善導寺＝福岡市博多区）の5カ所で行われた。5会場で合計88名の留学生が希望図書を受け取った。

ブックギフト活動は、浄平協の主要な活動の一つで、昨年度から宮城と福岡でも募集を開始、今年初めて宮城でも応募があった。本事業は、大学に通学する私費留学生が、与えられた課題に関する小論文を提出し、審査を通過すれば希望する研究図書を受領できる、というもの。本年度の作文のテーマは、「日本を留学先に選んだ理由」。外国人とは思えない流ちょうな日本語で書かれた小論文の応募があった（別掲記事参照）。

今回初めての開催となる宮城会場では、中国、ベトナムなどからの留学生11人の応募があり、12月5日、愚鈍院本堂で廣瀬卓爾浄平協理事長より、本を受け取った。寺院でのお勤めを体験

するのは初めてなのか、興味深く参加する留学生の姿が印象的だった。

その他、12月12日に贈呈式が行われた東京会場では、東京大、法政大など14の大学から26人の応募があり、大本山増上寺大殿で、山北光彦浄平協副理事長から図書を受け取った。国籍別では中国17人、韓国4人、ベトナム2人など。12月5日の関西会場は、大本山百万遍知恩寺で行われ、37人の応募があった。京都大が12人、大阪府立大5人、佛教大4人などで、東アジアだけでなく、アメリカの留学生からも応募があり、福原隆善台下より、直接、

図書を受け取った。12月19日の名古屋会場は、12人の応募で、中国9人、韓国3人、5大学の応募。12月12日の福岡会場は、2人の応募で、次年度以降、多数の応募が期待される。

全体で、大学院生60人、学部生23人、研究生等5人。

ここでは、授与式に参加した感想と応募のレポートを紹介する。



授与式参加の留学生全員での集合写真・京都会場

いただいた書籍は  
研究上の励ましとなる力

東北大学 李佳賓

今回に申請させていただいた4冊の書籍は、国際政治史分野の史料集あるいは日本外交の担い手の回顧録です。

今、私は日中関係の歴史を快く楽しんで研究しています。1972年の日中国交正常化の実現について、学者たちは、国際環境の変容・政治家たちの決断・官僚のイニシアティブ・民間人同士の友好交流などを論じています。70年代初頭は世界経済情勢が激変する時代であります。今回の浄土宗のブックギフトによっていただく本は、私の研究にとって、不可欠な資料であります。

『日中国交正常化・日中平和友好条約締結交渉：記録と考証』は、記録・証言・考証という三つの部分があり、着実な史料と厳密な分析を収め、同分野の学者たちによく引用される大作の一つである。『周恩来、キッシンジャー機密会談録』は2002年米国の史料公開によって出版された会談記録です。1970年代の米中接近はまさに、日中国交正常化の実現を可能とする環境を提供した。1971年周恩来とキッシンジャーとの会談において、日米安保条約や日中国交正常化など日本と緊密に関わる課題が論じられ、以降の日中接近

にかなり影響を与えた。『花好月圓—松村謙三遺文抄—』の著者は、1950～70年代の国交無しの時代に日中間交流のささやかなパイプの一つを維持してきた自民党議員松村謙三です。松村謙三という政府と民間という二つの窓口に対中交渉を経験された人物の回顧録には、刺激と啓発がもらえると思います。

冷戦の枠組みの中に、日中国交正常化の実現ができたのは、国際政治情勢の変化及び政治家たちの決断の以外に、20年余り続いた両国民間人による友好交流の積み上げのおかげです。上記の松村謙三以外に、池田大作为代表とするたくさんの日本宗教界の人士も、国交無しの時期に日中間交流に尽力し、国交実現の「友好」を積み上げてきた。

今回いただく書籍は、研究上の不可欠な資料であるほか、研究上の励ましとなる力でもあります。今月の愚鈍寺で書籍を受け取るときに、僧侶様たちの誦経儀式を拝見し、暖かい言葉ももらいました。僧侶様たちの姿に感動しました。私は今、まさに歴史研究の「愚鈍」の段階です。愚鈍院でもらった書籍と励ましは、自分の学業及び生活面での異文化交流の力となると信じます。

地域ごとの文化の相違を認めながら  
古いものを引き継ぎ新しいものを受け入れる

九州大学 唐挺山

まず、貴重な書籍をお贈りくださって、本当にありがとうございます。その本は前からどうしても手に入れたかったのですが、なかなか経済的に豊かではないし、止めようかと思いましたが、でも、今回ブックギフトとしていただいたのは、正直不思議で、サプライズな感じがしました。中で何冊は在庫なしの状態、大変お手数をかけたそうですので、本当に申し訳ないです。お心遣いを無駄にしな

いように頑張っていきたいと思います。

そして、仏教のことに触れるのは、今回はじめてでした。経文を朗読することを聞いて、自分も声を出して読んでみました。内容はよく分からないですが、貴重な体験だなと思いました。特に昔疾病を祓って人を救うため、お寺は建てられましたという話を聞いて、感動しました。私自身は宗教を信仰することがないですが、人と社会を助けよう、平





今回2回目となる福岡会場

和を求めようというような主張には、尊敬します。茶話をしていた時も、仏教と浄土宗の話のいろいろ聞かせてもらいました。やはり未だに分からない面は多い感じで、勉強になりました。物事だろがなんでもそうでしょう、分からないことに触れないなら、分からないままです。お寺に来る前は、どんな雰囲気なのだろうとドキドキして、多少不安でした。でも、皆さん優しいし、イベントの流れ

## 日本の仏教文化について学び ブックギフトは忘れられないイベントです

九州大学 カク ヨウナ

今日の午後、ブックギフトに参加できてとても嬉しかったです。浄土宗平和協会から出された本にとっても感謝しています。

中国にいる時、仏教寺院に偶然出会ったら祈っていました。でも、福岡でのこの仏教寺院に入ったのは初めてで、とてもリラックスしていて、プレッシャーがなく、気が散るような思いはあまりありませんでした。

私は最近「日本の歴史」という本を読んできましたが、たまたま隋と唐の時代から日本に至る仏教の歴史的過程を読んでいました。日本は本当に良いです。宗教や他の文化を学ぶのが本当に得意であり、独自の特徴を生み出すこともできます。

最後に、この機会に日本の仏教文化について学び、将来機会があれば同様の活動に参加

もかたかないし、ありがたいと思います。

最後、住職さんはご挨拶の時、中日交流のかけ橋になってほしいとおっしゃいました。それは私も望みます。国によっても文化によっても、物事への理解は違ってきます。これに気がつかないと、時々誤解も生じかねないです。もう一つは、時代による違和感です。「めっちゃ、やべ」とか、若者はよく使っていますが、乱れた言葉だと住職さんはおっしゃいました。確かに、出身大学でそのような日本語を、私は習ったことはないです。でも、世代は世代なりの言葉はありますから、正式な日本語とは言いにくいですが、真実の日本語の一種だと認めてもいいのではないかなと思います。いずれにしても、言語と文化は思った以上に、生き生き存在しているわけです。地域ごとの文化の相違を認めながら、適当に古いものを引き継ぎ、新しいものを受け入れるということのは良いだろうと考えています。

したいと思います。

ブックギフトは忘れられない、楽しくてリラックスできるミーティングとイベントです。どうもありがとうございました。



留学生たちと記念写真・名古屋会場

## ◆小論文「日本を留学先に選んだ理由」 今後の社会で自分の力を尽くす

愛知県立大学大学院 王天澄

若い頃から日本へ留学し、日本の会社に就職した私の叔父は、毎日頑張り、なかなか帰国できなかった。しかし、帰国したときは、必ず私に日本の美味しいお土産を買ってきてくれて、日本での面白く暖かい物語を教えてくださいました。そのため、小さな頃から日本に親近感を持っていた私は、日本へ行って色々学ぼうと思ったものだった。

一方、幼少の頃から両親が仕事で忙しかったため、学校以外の時間は一人だけいることが多くあった。このため、両親が家にたくさんの本を用意してくれた。そのような環境で、自然、歴史、社会など分野を問わず本を読むことに没頭し、自然と好奇心が旺盛となり、いつしか「なぜ」を探求することが習慣になった。この状態で高校に入学し、特に私をわくわくさせたのは、今でも最先端といわれている量子コンピューターだった。それ以前に「神はサイコロを振らない」というインシュタインの有名な言葉を科学雑誌で読んでおり、結局神様はサイコロを振るのか、振らないのかという疑問をきっかけとして、量子の神秘的な姿に惹かれ、「研究したい!」という夢をもつようになった。資料を調べた結果、量子情報分野の研究においても、世界のトップ層の研究者のいる日本に留学することを決意した。

学部在籍中の4年間、今後の役に立つ教養や専門知識をしっかり学びながら、アルバイトでは日本語によるコミュニケーション能力を鍛えた。さらに、大学院博士前期課程において、熱意をもって量子情報に関する研究を進めた結果、それまでの研究成果が学会でも認められ、2019年に平成30年度電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞を頂いた。受賞を励みに、大学院博士後期課程に進学後も研究に精進し、さらに2020年に令和2年度電気電子情報学術振興財団植之原留学生奨励賞を頂いた。また、私はコミュニティの創出

や国際交流活動も重要視している。大学公認サークル「中国留学生学友会」の創設もそのひとつである。同サークルは国際親善と異文化交流を目的としているが、会長として本学や他大学の日本人学生と中国留学生、及び国際交流に興味を持っている先生や欧米の留学生を集めて、手作り餃子会や海浜異文化交流会など多くの交流イベントを主催し、部員とともにボランティア活動に参加するなど、目的に沿って活発に活動している。

私は、今までに身に付けた貴重な経験や能力などを生かし、博士後期課程を修了後も、引き続き国際親善や交流に貢献しながら、グローバルな舞台で世界中の研究者と協力し、今後の社会で変革を起こすと期待される量子情報分野において自分の力を尽くしたいと思う。

### 2022ブック・ギフト贈呈内容

- 応募者数  
宮城…11名、東京…26名、京都…37名、名古屋…12名、福岡…2名
- 応募者国  
宮 城…中国8名、ベトナム2名、メキシコ1名  
東 京…中国17名、韓国4名、台湾2名、ベトナム2名、シンガポール1名  
京 都…中国31名、ベトナム2名、アメリカ1名、韓国1名、カンボジア1名、台湾1名  
名古屋…中国9名、韓国3名  
福 岡…中国2名
- 応募者大学別一覧（応募者数順）  
宮 城…東北大学6名、仙台ランゲージスクール日本語科2名、石巻専修大学1名、仙台ランゲージスクール1名、東北福祉大学1名  
東 京…東京大学10名、法政大学2名、武蔵野大学2名、武蔵野美術大学2名、青山学院大学1名、慶應義塾大学1名、湘南医療大学1名、昭和女子大学1名、白百合大学1名、大正大学1名、東京外国語大学1名、東京海洋大学1名、東京藝術大学1名、日本医科大学1名  
京 都…京都大学12名、大阪府立大学5名、近畿大学4名、佛教大学4名、大阪市立大学2名、京都工芸繊維大学2名、追手門学院大学1名、京都外国語大学1名、京都橘大学1名、種智院大学1名、摂南大学1名、同志社女子大学1名、花園大学1名、阪南大学1名  
名古屋…愛知教育大学4名、愛知県立大学3名、名古屋大学2名、南山大学2名、名古屋大学大学院1名  
福 岡…九州大学2名
- 応募者在籍一覧  
宮 城…大学院7名、大学1名、その他3名  
東 京…大学院19名、大学6名、研究生1名  
京 都…大学院24名、大学13名  
名古屋…大学院8名、大学3名、科目等履修生1名  
福 岡…大学院2名



## ◆小論文「日本を留学先に選んだ理由」

## 「和」の文化と人の温かみこそ日本の魅力

東京大学 タキザワ ヒデユキ



贈呈した書籍を喜ぶタキザワヒデユキさん(左)・東京会場

私は、日本特有の伝統的で多様な「和」の文化と人の温かみに触れ、日本の魅力を知りました。無形文化遺産に登録されている日本食、そして「おもてなし」の文化は、それまでの国でも経験したことのない特別なものでした。また相手に敬意を持ち、心を込めるマナーやサービス、ホスピタリティにも感動しました。こうした文化体験をきっかけに日本への興味が深まり、留学を決意しました。日本文化への憧れだけでなく、目覚ましい発展を遂げた日本という国に留学するというチャレンジには何ものにも代え難い価値があると思いました。

そして私はシンガポール出身の医療系研究者として、最高の医療技術、新しい文化、新しい言語に触れたいと考え、自分のやりたいことを思い切ってやってみようと思われ、日本への留学を決意しました。私は、世界的な金融センターになっているシンガポールから日本へ医学留学する際、渡航先の医療について学ぶのはもちろんですが、他にも語学や文化、シンガポールとは異なるコミュニケーションについて学ぶことができます。日本の大学病院やクリニックへ留学する医師は昔から一定数います。日本は世界的に秀でた医療技術を持つにも関わらず、日本で医療を学ぶ目的としては何が挙げられるのか、基礎医学系研究目的

の「研究留学」と、実際に患者の手術やケアにあたる「臨床留学」にもあります。実際に日本人の臓器や人体細胞などを用いた研究で、より具体的かつ統計的な研究成果を出すことが可能となります。この研究結果が学会や学術誌にて発表されることで、国際的な医師としての学術的な専門性が評価されることにつながるのです。高度な手術方法や思考プロセス、難しい症例など、シンガポールでは通常経験することの少ない問題を扱い多量の臨床経験を積むことで、日本での留学は医師としての技術力や応用力を高めるものです。

日本語圏の場合、医療従事者や患者との会話はもちろん、研究においても学会や論文発表が日本語となります。尚且つ、日本語が上手く使えると専門性の高いワードや新たに日本で注目されているトピックに関するワードに触れる機会も多いので、語学的能力の向上を期待できるでしょう。また、現地での生活を通し、生活習慣やヘルスケアに対する意識の差を知ることもでき、自身の知見が広がります。結果的に、そこで得た知識がやられる研究のヒントにつながる可能性もありますので、日本での一つ一つの経験が自分の糧となるでしょう。

そして何より、日本の留学先で出会う医療従事者や知人など、新たな人脈を築けることが留学の醍醐味でもあります。特に、医師の場合は難病に対するアプローチや最先端の医療系研究、最新の医療機器など、医療業界を取り巻く多くの事柄にアテナを張っておく必要があるため、日本に留学後も有益な情報交換ができるグローバルな人脈が専門性を高める鍵となり、自分も国際的の医師として海外の日本で成長できると分かることで日本へ留学する事と確かめました。

## ◆小論文「日本を留学先に選んだ理由」

## 小さい頃に住んでいた街でもう一度生活してみたい

佛教大学 楊若薇



福原台下より図書を受け取る留学生・京都会場

私は小さい頃から、日本と非常に深い縁がありました。私がまだ2歳のとき、当時佛教大学で留学していた両親に日本に連れてきてもらい、幼稚園から小学校一年生まで、京都で育ちました。2000年、父が博士号取得後、家族全員で中国に帰国しました。それから私は日本語の環境から離れ、徐々に日本語を忘れてしまいました。

中学二年生の時に、色々ご縁があり、また日本語を学び始めました。当時は、うっすら日本語の語感しか覚えていなく、もちろん色々な単語も全然知りませんでした。そのときから、何か日本語を学ぶことがとっても楽しく、毎日新しい単語を覚えて生活していました。

そして高校に入学してから、私は将来日本へ留学することを心の中で決めました。その時の理由も実ははっきりしていなく、一種の憧れみたいな気持ちだったかもしれませんが。ようやく高校二年生の時に、日本語能力試験N1を合格しました。そのときは無心に日本語を勉強し、学校の授業の間にも日本語の勉強をしていました。今振りか

えてみると、とっても楽しい思い出で、その時の自分がある、いま日本で勉強や研究ができる自分がいると思っています。

私は父の影響で(父も仏教学を学び、仏教徒でもあります)、仏教に非常に興味を持っていました。もちろん、その時は仏教に関する知識は全く無く、ただ、せっかく日本に留学するのなら、私も仏教を学びたい、小さい頃に住んでいた街でもう一度生活してみたい、という気持ちで京都、佛教大学を留学先に選びました。

私は現在、初期仏教に関する研究を行っています。現在は主に雑阿含経を研究し、将来は瑜伽師地論の研究も視野に入れています。漢文はもちろん、サンスクリット語やパーリ語などの言語を用いて文献を丹念に読み、様々な知識を学びながら、日々過ごしております。

京都に来て、佛教大学に入学してから、学内外で沢山の幸運と出会いに恵まれ、皆様のおかげで、現在博士課程まで進学することができました。心から感謝を申し上げます。これからも、自分と色々な方々に対して悔いのないように、日々精進して参ります。





浄土宗宗立・宗門学校に在籍の  
高等学校生徒対象に平和作文を募る

# 第3回平和作文コンクールを開催

浄土宗平和協会では、浄土宗宗立・宗門高等学校に在籍している生徒を対象にした、第3回平和作文コンクールを開催した。

本事業は、次代を担う高校生の「平和」への想いや考え等々を知り、浄土宗寺院ならびに教師が、若い世代に対し「平和」について働きかけるために今後取り組むべきことを見つけることを目的として、今年度が3回目となる。

昨年6月に、宗立・宗門高等学校17校を対象に募集、179作品が寄せられた。

応募作品に対し、今年度も学校法人佛教教育学園中等教育プロジェクトマネージャー・福地信也先生を審査委員長に、正副理事長、事務局長の5名で厳正に審査をした結果、総裁賞1名、副総裁賞2名、理事長賞3名、学校賞1校を決定した。

表彰は、該当生徒が在籍する高等学校において、学校長から栄誉を讃え表彰状を授与していただき、応募者全員に参加賞を配布した。

今号では、全受賞作品を掲載し顕彰すると共に、趣旨の通り高校生の「平和」への想いや考えに触れていただければ幸いである。

## ○応募状況

- ・上宮高等学校……………127作品
- ・上宮太子高等学校…27作品
- ・真和高等学校……………11作品
- ・東海高等学校……………10作品
- ・京都文教高等学校…4作品

## ○審査結果

- ・総裁賞（1名）  
真和高等学校2年生・木野恵輔さん
- ・副総裁賞（2名）  
真和高等学校2年生・栗澤文歌さん  
上宮太子高等学校2年生・森本陽菜さん
- ・理事長賞（3名）  
東海高等学校2年生・牛田 蓮さん  
京都文教1年生・水野千夏さん  
上宮高等学校3年生・駒井佑名さん
- ・学校賞（1校）  
真和高等学校

## 廣瀬理事長 学校賞受賞校を訪ねる

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 第 | 3 | 回 |   |   |   |   |   |   |  |
| 平 | 和 | 作 | 文 | コ | ン | ク | ー | ル |  |

第3回平和作文コンクールにおいて、最優秀作品に授与される総裁賞ならびに副総裁賞、そして学校賞の三賞を受賞した真和中学高等学校（熊本県）を理事長が訪問し、総裁賞の木野恵輔さん、副総裁賞の栗澤文歌さんに、応募作文に込めた思いを聞かせていただいた。

あわせて、同校の教育方針などについて校長の芥川隆浄先生のお考えをお聞きした。教頭の横瀬知節先生と国語科担当の松永哲雄先生にもご同席いただき、両先生からも貴重なご意見を拝聴することが叶い有意義な機会を得たと喜んでいる。



賞状を手に記念撮影、左から芥川隆浄校長、副総裁賞の栗澤文歌さん、総裁賞の木野恵輔さん

**廣瀬**●浄土宗平和協会の平和作文コンクールも今年で3年目になるのですが、審査員の皆さんから、毎年の真和高校からの応募作品は、いずれも内容と構成力が秀でていて高い評価がなされ、私も同じような印象をもっていますが、特に生徒さんの作品から「豊かで確かな社会性」、「平和への関心の高さ」を覚え、ぜひ、真和中学・高等学校の教育方針についてお聞かせいただきたいと訪問させていただいた次第です。

**芥川先生**●「真和」という校名は、聖徳太子が座右の銘にされた「唯仏是真」「以和為貴」の言葉に由来するものですが、明朗にして「和」を重んじる人間性と、生徒自らが「真理」を追求しようとする向上心の育みを教育理念にしています。したがって、私自身もそうですが、先生方も、

機会あるたびに「和」や「平和」、ひいては社会と個人とのあり方についての話をすることは多いと思います。

**横瀬先生**●本校は中高一貫校です。内部進学の子と高校からの外部進学の子がいます。内部進学の子は、中学から仏教講話に親しんでいるのですが、高校からの生徒はそうではありません。そこで、大本山善導寺に泊りがけの研修に行き、仏様のことについて考えたり、合掌の意味を考えたりする精神的な修養

の機会になっています。

**廣瀬**●真和高校は、熊本でも上位の進学校として名をはせておられますが、ややもすれば進学校では、社会問題や社会的な事柄に対する関心の啓発や育みなどには重点を置かず、生徒も保護者も先生たちも、学業成績の伸長一点のみに意識が向けられる傾向にあるのではないかと感じています。このような、こんにちの中等教育をめぐる環境の中で、真和高校の生徒さんの作品は、社会的イシューに関する認識あるいは意識が、確かな手ごたえを感じるほどに育っていると感じますが、社会性の涵養という点で、特に留意されている点をお聞かせください。

**芥川先生**●先ほどもお話ししたように、建学の精神に基づいて、機会をみつけては様々な話をす



## 廣瀬理事長 学校賞受賞校を訪ねる

|   |   |   |   |   |   |   |    |
|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 第 | 3 | 回 |   |   |   |   |    |
| 平 | 和 | 作 | 文 | コ | ン | ク | ール |

るように心がけています。もちろん、その場その時の一々の話が、生徒たちの心や意識の奥深くに残るといえるものはないでしょうが、知らず知らずのうちに何かを感じ取ってくれていると思います。仏教で言うところの「薫習」ですね。平和作文を書くにあたって、薫習された何かが滲み出てくるのだと思います。私から見ても、今回受賞した二人の作文は、たいへんよくまとめているなと感心します。

**横瀬先生**●本校生徒の社会性の育みという点で、とても大きな影響力を持って教育に当たっておられる先生がおられます。国語科の松永哲雄先生です。先生は国語科の先生ですが、国語科という教科の枠にとらわれず、常に「人を育む意味」を考えながら教壇に立っておられる真和教育にとって無くてはならない先生です。

**松永先生**●真和高校の一日は合掌から始まります。校長先生の掛け声のもと、生徒も先生も合掌する。それを毎日続けます。合掌に込められた願い、そういう感覚が自然と生徒の中にも育っているのではないかと私は思っています。

**廣瀬**●合掌に込められた願いとは……？

**芥川先生**●本校で「合掌」というのは、たんに掌を



木野恵輔さんへ総裁賞を授与する

合わせるという意味でなく、「合掌」という言葉を斉唱することを指します。毎日、朝夕のH・Rで斉唱しています。ほとんどの生徒は語っていますよ。

### \*真和高校の「合掌」

#### 合 掌

みほとけのみめぐみにより

今日の一（ひとひ）を

人としての過（あやまち）なく

互（たがい）に睦（むつみ）互に譲（ゆる）り

己（おの）が業（わざ）を励みて

世の文化（ひらけ）につとめ

社会（よ）に光明（ひかり）を捧げむ

みほとけの加祐（みまもり）を給へ

**廣瀬**●毎日朝夕……ですか。自然に心と身に染みていきますね。まさに薫習ですね。

**横瀬先生**●平和作文に取り組もうとすると、生徒自らが、日ごろから日常的な社会事象に向き合い、自身が主体的に考える力を養っていかうとする努力がなければ書けないのではないのでしょうか。今回賞をいただいた生徒二人は、いみじくも同じミャンマーの問題を取り上げました。日常的なことに興味を寄せなければ、このテーマを選ぶことはなかったでしょう。生徒の多くが、日常の出来事に関心をむけることの大切さを会得しているのも松永先生の薫陶のおかげだと思っています。また、学校での探究型活動を通して、生徒の知的関心の高さを感じています。社会への視座が結局受験にもつながっていくのでしょうか。

**廣瀬**●受賞されたお二人にお伺いします。偶然でしょうが、お二人とも「今年の2月にミャンマーで」と、

まったく同じ書き出しになっていますね。ご家族の方と、作文に書かれたような内容を話題にされることがよくありますか。

**栗澤**●家族で話題にするわけではありませんが、毎晩、ニュースを見るので、時事問題には関心のある方だと思います。

**木野**●私も、新聞やテレビでニュースは見ているので、ある程度、世の中の動きは知っていて、作文を書くうえでとても参考になりました。書き出したら、感じたことが自然に文字に表現できたので、日頃ニュースを意識していたことが活きたのかな、と感じました。

世の中の出来事には関心はあります。だからニュースなどに触れて、いま何が起きているかを意識的に知ろうとしています。

**廣瀬**●栗澤さんは、人類は、有史以来、争いを収めるために、なぜ武器の使用という手段を選んだ、別の方法を用いようとしなかったのか、と聞いていますね。きっと別の方法があるはずだ、とも書いています。字数の制約から「解決策を模索したい」と結んでおられるが、字数の制約がなかったら、この先に書きたいことはどのようなことだったのでしょうか。

**栗澤**●限られた字数の中で自分の考えをまとめることは本当に難しいです。何百年何千年も前から、戦争という行為があって、なぜ武力を使う必要があったのかを書きたかったのですが、もう少し掘り下げて書きたい点がありました。

**廣瀬**●その他、経済格差など、現代社会には埋まらない溝があるとも指摘なさっていますが、字数制限がなければ、この点についてももっともっと深く掘り下げて書きたいなという気持ちが伝わってきましたよ。応募作品だけでなく、このようなテーマの作文の結びには、「平凡でもよい



栗澤文歌さんへ副総裁賞を授与する

から、皆が仲良く生活できるように努めたい」という類の言葉が常套句のように置かれることが多いのですが、そうならないところが素晴らしい。

**栗澤**●ミャンマーをはじめ、戦争や紛争が起きている地域は、やはり開発途上国が多いと思います。そこには先進国の関与がとても重要だと考えています。

生きることに必死な状況では、自分のことだけしか考えられないように思うのです。開発途上の国が豊かになっていけば、人々の心も豊かになっていき、他者にも心を向けることにつながり、紛争を解決する何かが生まれるような期待を持っています。

**廣瀬**●木野さんの作文のキーワードは「私利私欲」ですね。私利私欲が紛争の元になる。「他者への思いやりが平和の実現には必要だと考える」という、この言葉は他の作品にも多くみられましたが、「思いやりというのは、自分の欲望をコントロールすることだ」という木野さんの主張が目をはきました。平和と欲望を関連づけたきっかけについて聞かせてください。

**木野**●戦争という行為、なぜその戦争が起こった



廣瀬理事長  
学校賞受賞校を訪ねる

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 第 | 3 | 回 |   |   |   |   |   |   |  |
| 平 | 和 | 作 | 文 | コ | ン | ク | ー | ル |  |

のかと考えると、例えば自国の領土を広げたいなどの欲望が動機になっているのではないかと思います。その欲望を実現するには、必ず相手と衝突するのではないかと考えを進めていきました。

**廣瀬**●もう一つ木野さんの作文で目を引いたのは、「人々が世の中の動静にもっと関心を持ち、国民参加型の政治をすることだ」という主張です。社会の情勢に無関心でいると、政治は権力者の争いの場になり国民が見捨てられる、と述べていますが、どうしてそのように思ったのでしょうか。

**木野**●無関心なままだと、政府の人たちだけで、勝手にいろいろやり出して、結局、戦争の方に向かっていくのも厭わなくなるのではないかと思

※誌面の都合上、お話しいただいた内容を抜粋、編集の上、掲載をしております。

います。国民が政治に関心を持ち、国がどのように動いているのかについて、いつも話をしておくべきじゃないかと思います。

**廣瀬**●お二人はともに理系のクラスで学んでおられるのですが、卒業後の未来図を聞かせてください。

**桑澤**●私は、大学へ進学し、将来は薬学の勉強をしたいと考えています。

**木野**●大学進学を目指して頑張っていますが、将来、自分が何をしたらよいのか、何をしたいのかが、まだ具体的にイメージできていなくて、進学の意味を探しているところです。

**廣瀬**●ご活躍を期待しています。ありがとうございました。

高校生の「平和作文」を読んで

浄土宗平和協会副理事長 深谷雅子

令和3年度の平和作文コンテストは、179名の応募がありました。コンクールに参加した高校生が社会と向き合い平和について考える機会があったことは大変有意義な時間であったと思います。作文にするため平和について考え文章にする過程が「平和作文」の重要な目的でもあります。

今年は、新型コロナウイルスによる今まで当たり前できていたことが制限され、非日常での生活が平和でないといった内容が多くみられました。

平和に対する概念が今では多様化しています。平和に対する対義語は戦争だけではなく、高校生にとって社会の情勢不安・貧困・いじめ・災害疾病など不安な日常は心穏やかな平和ではありません。

世界を見ますと、あちこちで紛争が起きています。相手に対して思いやりをもって話し合いで解決をと高校生は意見をのべています。

文章を書いて自分自身だけにとどめておかず、高校生が平和について話し合うことも大切だと思います。平和についての討論会が持てたらより深く平和について考えることができるでしょう。

幾度となく繰り返され戦争があった二十世紀に対して二十一世紀は「平和と人権」であるはずですがなかなか難しいことです。

「兵刃無用」（兵隊・軍隊はいらない）という言葉がありますが、しっかり心にとどめて若い人たちに伝えていくことが必要ではないかと思ひます。心おちつかせる日々を過ごせるよう願っています。



|   |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 第 | 3 | 回 |   |   |   |   |   |   |  |
| 平 | 和 | 作 | 文 | コ | ン | ク | ー | ル |  |

今年の二月にミャンマーでクーデターが起きた。軍が政権を掌握し、反対する人々を武力で鎮圧した。また、ネットワークも遮断され人々が自由に情報発信できなくなった。私は軍が人々に銃を向けている映像を見て、思わず目を塞いだ。本当に痛ましい出来事であった。人々が常に上からの圧力に脅やかされてきた。ミャンマーは、果たして平和であると言えるのだろうか。

私は、平和とは、誰もが他から脅やかされずに、人権が守られ、争いがなく誰でも幸せに生きられる状態のことだと思ふ。ミャンマーは平和からかなりかけ離れた状態であったと言えよう。では、平和を実現するために、私たちが意識しなければならぬことはどのようなことだろうか。私は以下の二点について考えた。

一つは、自分の私利私欲をおさえること。私は、自分達だけの欲求や欲望に走りすぎた結果、他と衝突することが戦争の根本的な原因だと考える。自分達ばかりの欲望にとらわれすぎると他人のことが見えなくなるのではないかと思ふ。そのことが世の中に争い、混乱をもたらし、人々が何かに脅やかされなければならぬようになっていくと感ずる。だから、私は私利私欲を抑え、他を思いやるのが平和の実現には必要だと考える。常に自分の欲望をコントロールし、周りのことを考えることが、平和への実現の第一歩ではないか。

平和の実現

真和高等学校2年  
木野恵輔

もう一つは、世の中にもっと関心を持ち、国民参加型の政治をすること。世の中に無関心でいると、政治は権力者の争いの場となり、国民は見捨てられるだろう。我が国は戦争を経験し、戦争の悲惨さを受けついで来たので現在まで平和でいられた。一方で、世界は国ごとに「平和」の定義が異なり、それが戦争の原因にもなりうる。そのため、軍事力、外交力を含めた総合的な安全保障政策にも関心を持つべきだ。これから未来を担う私たちは、世界中に目を向けながら国の政治の動きにも注視していきたい。

平和を実現するには、一人一人の努力にかかっていくと思う。各国が互いに内情を理解し合い、お互いの考え方を尊重し合って問題」を対話で解決するべきだ。さらに、戦争の発端になりうる指摘されている経済格差や食料・水問題などへの取り組みも重要である。世界中が同じ平和の目標を立て、一丸となって努力することが必要である。

ミャンマーに限らず、世界中で紛争が起こり、多くの子供達が犠牲になっている。それを念頭において平和の大切さを噛みしめ継承していきたい。



今年二月、ミャンマーで国軍によるクーデターが起こった。日を増すごとに過激化する軍隊からの攻撃はテレビで見ている。けたたましく響く銃声と悲鳴の中を、血だらけの少年を背負って逃げる一人の男性の姿は、あまりにも衝撃的で胸が痛く、今も鮮明に覚えている。画面越しに見ているだけでもたまらないのに、現地であのような辛く苦しい日々を生きるミャンマーの人々の苦労や気持ちは容易に想像できない。

映像も見ながら改めて疑問に思ったことがある。なぜ人々は戦争などの暴力や武器を用いた残虐な攻撃によって自分たちの意志を強制しようとしてしまうのだろうか。遡ってみると私たち人間は、何千年も前から戦争などの武力衝突を繰り返してきた。資源や土地の奪い合い、民族同士や宗教同士の対立、権力争いなど、原因は様々である。そして現在もなお、同じようなことが原因となり、世界各地で紛争や内戦が行われている。このような背景から、武力衝突がなくならない理由として私が考えるのは二つである。

## 私たちが実現する平和

真和高等学校2年

栞澤文歌

一つは自分たちの意見を主張する方法として、武力を行使することしか分らないということである。昔から戦争を繰り返してきたこの世界には、十分な教育も受けられずに過酷な日々を生きてきた人々が多くいる。戦争しか知らない人々は、自分たちの世代になって争うこと

現在まで戦争がなくなったことのないこの世界から今すぐ戦争をなくすのは難しい。しかし、将来起こりうる戦争をとめることは可能である。そのために必要なのは世界中の人々が戦争について正しく理解することだと考える。これからの戦争を阻止するためには、戦争の残酷さや悲惨さはもちろんだが、世界を取り巻く環境や情勢についても理解する必要がある。学ぶことが世界の困っている人たちのために自分ができることが何か見えてくるかもしれない。これからの未来を戦争のない、人々の笑顔であふれる世界にするためにいま私たちは地球に生きる人間の一人として戦争や平和についてしっかりと学び、互いの意志を尊重しあうための新たな解決策を模索していくときだと強く思う。

平和の反対は戦争なのか。疑問に思い、辞書で調べるとやはり平和の反対は戦争と記されていた。では、戦争しないことが平和とされる日本でも、働いても貧困から抜け出せないワーキングプアや、その人自身を見ずに住んでいる場所、生まれた場所を理由に受ける部落差別。地球上にもともとあった自然を壊してしまふ自然破壊などの、こういったたくさんある社会課題が存在している。日本は第二次世界大戦が終わってから、七六年の間戦争は起きていないにもかかわらず、様々な問題がある日本を平和と呼ぶことができるのだろうか。

他にも、戦争が終わった社会について考えてみた。武力による直接的な暴力がなくなっても戦争が終わった後には、たくさんさんの困難が待ち構えている。戦争によって、夫を失ったシングルマザーの貧困、破壊された環境や若者の高い失業率。もし、戦争の反対が平和だとするならば、すぐに平和な社会が訪れるはず。戦争が終わった後に訪れる社会は平和と呼ぶことができるはず。しかし、実際にはそうではないのが現状である。これらを踏まえて、「戦争がないから平和」、「平和の反対は戦争」という考え方に違和感を覚えた。

平和には二つの種類がある。たとえば、戦争やテロなどの直接的暴力だけがない状態を消極的平和、直接的暴力だけでなく、貧困や抑圧、環境破壊といった、特定できないなにかが暴力をふるっていることを構造的暴力と

## 戦争がないから平和なのか

上宮太子高等学校2年

森本陽菜

いい、それもなくなった状態を積極的平和という。この二つの平和の視点から、現在の日本を捉えると消極的平和は実現されているが、積極的平和は実現されていないことが分かる。こうして考えると、平和の反対は戦争ではなく、平和の反対は暴力がない、直接的暴力と構造的暴力のどちらもない状態のこと、ということが出来る。

私は、インターネットで戦争に関する画像を検索してみた。すると、兵士の画像や戦場の写真、難民の写真などイメージが伝わりやすい画像が多い一方で、平和の画像を検索すると、平和の象徴であるハトやきれいな海の様子、幸せに暮らしている人々の写真など、戦争には具体的なインパクトのある画像であるのに対し、平和はどちらかというとイメージで語られがちであるなと思った。だからこそ、平和と戦争を相反する形で並べることは違ふと思った。

調べてみて思ったことは、消極的平和と積極的平和をしっかりと理解して、偽善や食い違いを防ぐことが大切だと思った。SDGSという言葉が流行っている今、その一つである「平和」について真剣に考えるべきだと思った。

になれば彼らもまた戦争という選択をするのだろうか。

もう一つは経済格差や考え方の違いなど、未だ埋まらない溝が多く存在することである。自分たちが発展していくのに必要なものを互いに奪い合う。人にはそれぞれに大切なものや考え方があり、それらがぶつかりあうことも当然ある。しかし、それを武力によって解決しようとしてもそれぞれに深い悲しみが残るだけで、解決方法として間違いだと思ふ。



平和とは何か。世界がどのような状態にあったら、平和と呼ぶのだろうか。

僕は、世界中の人々が犯罪や戦争に怯えることなく、平穏な日常生活を送ることができている状態、それが平和なのだと思う。あの世界中を巻き込んだ忌まわしき戦争、第二次世界大戦から七十年以上経った今でさえ、世界各地で戦争が起こっている。また、独裁体制を敷いている国もあり、つい最近ではアフガニスタンで再びタリバンが権力の座につき、ミャンマーではクーデターによって軍事政権が樹立された。こういった国々では、支配者が武力によって国民を統制し、国民の命が不当に奪われることも少なくない。世界にはいつ死ぬか分からないという恐怖に脅かされている人々がたくさんいるのだ。このような状況は、平和と呼ぶには程遠いだろう。

ただ、平和への道は閉ざされてしまったわけではない。国連やNPO等の団体は、難民への支援や紛争の仲裁など、平和への活動を続けている。しかし、国連の長年に渡る平和維持活動の努力にも関わらず、安全保障理事会は、常任理事理メンバーの大国の思惑によって、正常に機能しているとは言い難い。最近では中国やロシアを代表とする権威主義国家と、アメリカ、ヨーロッパ等の自由主義国家の対立によって、世界は更に分裂に向かっていく。

## 世界の平和に向けて

東海高等学校 2年

牛田 蓮

世界がますます混乱する中で、私達高校生ができ何であるか。例えば、困っている国々への募金活動や、国連、NPO等の平和活動を多くの人々に知ってもらうようなSNS等で呼びかけることも、私達高校生でも可能だろう。今はツイッターなどのSNSを通じて意見を述べることは、比較的簡単にできる。しかし、ただ一方的に自分の意見を述べるだけではなく、今、世界に最も必要なのは、相手の意見を聞き、相手の立場に共感することではないだろうか。自分の主義や意見を一方的に相手に求めるのではなく、まずは相手の言葉に耳を傾け、尊重する姿勢が大切なのではないか。国籍や人種で相手を差別することがなく、個人として付き合いを深めることが大事だと思う。

最近この日本でオリンピックピックが開催された。世界中のアスリート達が競い合う中、励まし合う姿も見た。また表彰台では、国籍や人種を超えて、お互いを讃え合い、喜びを分かち合う姿に、僕は心を打たれた。世界が一体化したように思えたし、平和のあるべき姿がここにあった。

まず、相手を尊重し、きちんと向き合っかけて付き合っていくことが、世界の隔たり、分断をなくし、少しでも平和な世界につながる一歩になる。

そして、差別や戦争のない世界がいつの日かやって来るとことを、僕は信じている。

平和とは何か。そう考えた時に思い浮かぶのが幸せだ。世界中の人、一人一人が幸せであれば世界は平和になる。しかしそれは不可能だ。そもそも人によって幸せの感覚は違うし、何を持って不和と言うのか、幸せと言うのが人それぞれ違うからだ。では平和な世界により近づけるにはどうすればいいのか。それは小さな喜びを感じることに、身の回りの人を笑顔にすること、当たり前を当たり前と思わないことだと思ふ。

例えば自分が風邪をひいたり、怪我をしたりすれば、健康な時・元気な時が当たり前ではないと分かる。人は自分が良くない状況に陥った時しか当たり前が当たり前ではないと感じないのだ。そして、またいつも通りの日常に戻ればそれを感じなくなってしまう。これが世界が平和にならない原因の一つだと思ふ。私は当たり前とは人の幸せに繋がるものだと考えている。普段それに幸せを感じないだけで、インターネットが使える事や家族と友達と話せる事、人によって当たり前と感じる事は違うが、それらが出来るというのは何よりも幸せだ。しかし、人間は幸せだと感じていたものに慣れてしまい、もともと欲張りになってしまふ生き物だ。だから、私の場合些細な事でも感謝を口に出して伝えるようにしている。そうすれば当たり前の事ではないと感じる事ができるし、小さな喜びにも幸せにも気付けると思ふ。そして、その小さな喜

## 世界平和への第一歩

京都文教高等学校 1年

水野千夏

びや幸せの積み重ねが平和を作り上げていくと考えている。次に私が言った身の回りの人を笑顔にというのは、自分の手の届く範囲で、という意味だ。家族や友達、自分に関わった事のある人達が笑顔になる事を何でもいいから、小さな事でもいいからやってみる。手伝い、相談にのる、一緒話す、そうやって自分から相手喜びそうなる事を行うと、きっと笑顔で感謝してくるだろう。笑顔というのは伝達するものだから、自分も自然と笑顔になるし良い気分になる。そうすれば、相手も自分も楽しく気持ちよく過ごせる。手の届く範囲で人を笑顔にさせる事は、相手に少しでもプラスの影響を与えているだろう。

世界を平和にするにはどうすればいいのか。そう考えると、あまりに壮大すぎて難しいが平和を中心にマインドマップのように考えていくと、意外に簡単に思えてくる。このように、自分の身の回りの小さな所から始めていく、その小さな幸せがさらに連鎖していくと思ふ。だから、私が初めに述べた事は世界平和に繋がる第一歩だと考える。



理事長賞

第 3 回  
平和作文コンクール

O P I C S

## 30周年記念大会を挙行 慈愛に満ちた平和な社会の実現を



御垂示を述べられる伊藤唯眞猊下

無用”は実現しない」と訴えられた。

廣瀬卓爾理事長はあいさつで、記念大会の趣旨を「慈愛に満ちた平和な社会の実現に向けて、揺るぎない不断の努力の継続を相互が確かめ、誓い合う」とし、冒頭の法要を「祈念でもなく祈願でもなく、誓願とうたった意味をご理解いただきたい」と訴えかけた。

法要に続いての記念講演では、近代の仏教数団史に詳しい龍谷大学名誉教授で本願寺史料研究所の赤松徹

眞所長が「人びとの平和への願いと仏教への期待」と題してお話しいただいた。

赤松氏は、金属の供出などで戦争に協力していた戦時体制中の仏教教団のありようを紹介、仏教の教えに学び、社会や現実を見つめる必要性を伝えた。

この記念大会を契機に、浄土宗平和協会は戦時資料の収集・分析や留学生へのブックギフトなど社会貢献活動をより一層活発に進めていく。



本願寺史料研究所・赤松徹眞所長

浄土宗平和協会は設立以来 30 年が経過、「兵戈無用」「怨親平等」を活動の基本理念におき諸事業を進め、浄土宗劈頭宣言の精神ともいべき「慈愛に満ちた平和な社会の実現」へのゆるぎない不断の努力を確かめ、誓い合うことを旨とする記念大会を去る令和 3 年 12 月 3 日、浄土宗宗務庁（京都）で開いた。

オンラインを含め約 110 人の参加者の中、総裁を務める浄土門主・伊藤唯眞猊下を導師に「平和誓願法要」で大会はスタート。声明伝承と研鑽に取り組む七聲会が式衆として参加、寺庭婦人らで結成する葵会が御詠歌を披露した。

法要後の御垂示で、伊藤猊下はご自身の兵器工場に従事した戦時中の体験を語られ、「慚愧の念に堪えない」と述懐、「法然上人は『選択集』で弥陀の本願、平等の慈悲という言葉にふれた。人間としての愛をもって徹底的に相手と話し合わなければ“兵戈

私は先日、戦争を英語で伝え続ける 90 歳の女性、小倉桂子さん取材している番組を見ました。小倉さんは、戦争について知りたいと思っている外国の方々に被爆体験を話したり、平和記念公園で通訳などを行っています。終戦から 76 年が経ち、戦争を見た人、知っている人が少なくなっています。戦争を知らず、想像することしか出来ない私たちに戦争を知ってもらおう。そして私たちが次の世代に伝える。「今まで伝え続けたバトンを手渡すのが私の役目」と小倉さんは仰いました。私が小倉さんから受け取ったバトンを次の人に手渡す為には、戦争について知らなくてはならないのですが、誰かに伝えるほどの戦争の知識はありません。小倉さんのお話を機会に、戦争について詳しく調べようと思えました。

戦死した画学生たちの作品が展示されている無言館。無言館には、自画像や家族、故郷の風景など「へいわの姿」が描かれた作品が並べられています。その中で一家団欒の絵が描かれています。「家族」という作品があります。その作品は貧しい農家だったために毎日働き、一家団欒は一度もなかったという作者の伊澤さんが戦地に立つ前に、「家族にはこんな暮らしをしてほしい。」という夢を込めて描いた空想画です。その作品に込められた想いを知ったとき、胸が苦しくなりました。戦争などなかったら、伊澤さん自身がこのように暮らすことができるのでしょうか。家族で囲

### 平和へのバトン

上宮高等学校 3 年

駒井佑名

むご飯は当たり前ではなく、家族団欒こそが平和の象徴であること。この絵を見て、戦争への怒りを感じたり、日々の中にある幸せに気づくことができず。このように、日本のために戦ってくれた方々が残してくださったものを見て、戦争の残酷さ、普通の日々を送れていることへの感謝をかんじなければいけないと思いました。

多くの尊い命を奪った戦争。亡くなった人のほとんどに伊澤さんのように、大切な家族がいたでしょう。残された家族の気持ちを考えると、敵の国がとても憎いです。憎しみを増し、憎しみを増し、憎しみを増し、憎しみの連鎖を断つことが世界平和への道につながります。何かを憎み、恨む前に戦争のような悲しい出来事が二度と起こらないように、戦争を伝えていくことが私のできることでと思います。次の世代へ平和のバトンをつなげるために、原爆ドームや無言館など、実際の地へ足を運び、戦争を自分事のように考える。戦争について友人と語ってみるなど、一人ひとりの力は小さいかもしれませんが、その小さな積み重ねが平和への第一歩になると信じて行動する。小倉さんのように戦争を経験した人からお話を聞ける機会がある私たちには、次へ伝える責任がある。私たちにバトンをつなげてくれた人に感謝をしよう。この時代に生きている私たちがだからこそのことをしよう。



# 浄土宗平和協会(JPA)

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。

## 入会要項

浄土宗平和協会(JPA)の活動にあなたも参加しませんか？

### 正会員

対象……浄土宗教師・寺族  
会費……年間 10,000 円

### 賛助会員

対象……檀信徒、企業や宗教法人以外の団体  
会費……檀信徒会員年間 2,000 円  
法人会員年間 10,000 円 (一口)

賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダーナに芳名を掲載します。  
ご希望の方には詳しい案内が掲載された協会のパンフレット(入会用振込用紙つき)を同封いたしておりますのでご利用ください。

## JPA 浄土宗平和協会重点活動

- 1 平和念仏募金運動
- 2 ブックギフト事業
- 3 浄土宗平和賞
- 4 NGO・NPO支援
- 5 宗門高校生平和作文コンクール

## 平和念仏募金のご協力のお願い

平和念仏募金は、各NGOやNPO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆平和念仏募金は、平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金に充てられます。
- ◆①世界の人人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する——との方針のもと、NGOやNPOを支援しております。
- ◆私費留学生希望図書購入支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生の勉学支援をしています。



浄土宗平和協会理事長  
廣瀬卓爾

本協会では、全国の宗内御寺院に対して戦時資料に関する情報提供を依頼し、おかげさまで26カ寺から120点の情報をお寄せいただいたが、目下、戦時下の宗門動向を考究する委員の協力を得て、実地調査と整理を進めている。軍備資材調達に資するべく供出された梵鐘、住職出征時の文書、檀信徒の戦死追弔に際して送られた下炬の下書き、子どもたちを対象に作成された軍事色が色濃く残る「紙芝居」等々、当時に如実に語る貴重な資料とそれらにまつわる情報をお寄せいただいた。ご協力をいただいた御寺院各師に厚くお礼申し上げますとともに、貴重な資料の一角が私たちに呼びかけている重たい意味を読み解きながら分析作業を進めてまいります。

今回の調査に対して、提供された資料の公開展示を勧めるご意見も頂戴している。また、戦時体験を持たれる御住職からは口述録を求める声も届いている。資料の中には、個人情報にかかわる情報も多くあり、その形式や時期については慎重を期さねばならないが、「公開」する意義は大きく、その実現を図りたいと思っている。

折しも今日(令和3年11月20日)から、浄土真宗本願寺派では「宗門寺院と戦争・平和展」が開催される。これは同宗派が実施した「戦時被災等調査」で収集した約2万点の資料の一部(1500点)の一般公開である。

さて、今回の戦時資料に関する提供依頼は、当時の宗門と戦争とのかかわりを包括的に検証することを目的として進めている作業を、いわば補完することを目的としてなされたのであるが、前記した種々の資料に触れるにつけ、補完の意味を超え、さらにこの資料収集を続ける必要性を覚えている。

あらためて御依頼させていただく予定であるが、協会会員のみならず諸大徳各師のご理解とご協力を賜りたいと願っている。

## 浄土宗平和協会役員・スタッフ

|   |                                |                               |
|---|--------------------------------|-------------------------------|
| 【理事長】<br>廣瀬卓爾                                 | 永江憲昭                           | 【事務局長】<br>山川正道                |
| 【副理事長】<br>深谷雅子<br>山北光彦                        | 【専門委員】<br>戸松義晴<br>大谷栄一<br>伊藤茂樹 | 【事務局】<br>宮田典彦<br>小泉範幸<br>霜村真康 |
| 【理事】<br>東海林良昌<br>齋藤隆尚<br>小口秀孝<br>野上智徳<br>山川正道 | 小川有閑<br>枝木美香                   | 田中堅信<br>岩井正道<br>池野亮光          |
|   | 【監事】<br>倉井正則<br>山下裕通           |                               |

## 浄土宗「戦時資料」に関する委員会

|               |                              |                      |
|---------------|------------------------------|----------------------|
| 【委員長】<br>大谷栄一 | 【委員】<br>武田道生<br>江島尚俊<br>原田敬一 | 小林惇道<br>加藤良光<br>赤坂明翔 |
|---------------|------------------------------|----------------------|



〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 浄土宗社会部  
TEL: 03-3436-3351 FAX: 03-3434-0744

連絡・問合せ先: 浄土宗平和協会事務センター  
〒622-0003  
京都府南丹市園部町新町火打谷5 教伝寺内  
TEL: 0771-62-0442 FAX: 0771-62-1620  
メール: info@jpa-jodo.or.jp